



不確かな情報に対する 個人の応答を定量的に評価する

竹川 高志 情報学部 システム数理学科

キーワード: アンカリング効果、数理モデル、認知バイアス

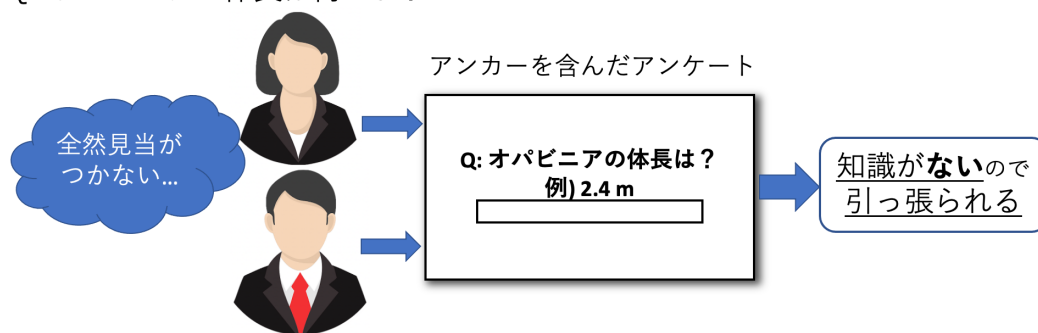
概要

- ◆ アンカリング効果とは、事前に提示された数字により後の判断が影響を受ける現象
- ◆ モデルの利用で数問のアンケートから個人の傾向を抽出可能
- ◆ 知識量と独立で情報の受容度を推定できる

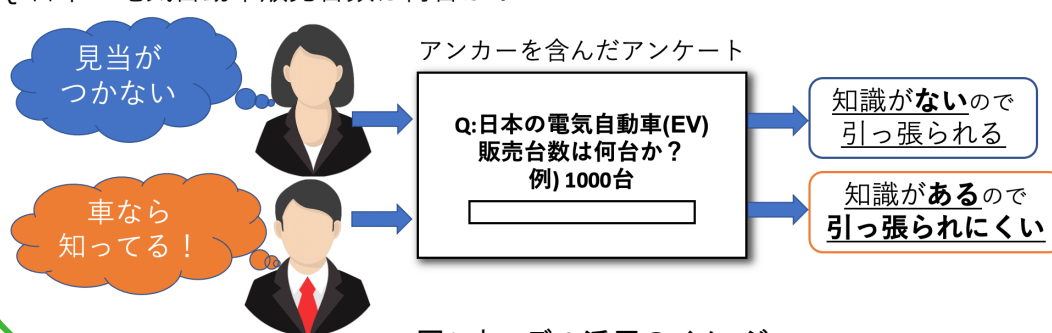
アピール ポイント

- ◆ 企業との共同研究においても、モデルの使用実績あり

Q: オパビニアの体長は何mか？



Q: 日本の電気自動車販売台数は何台か？



知識量と
独立して
情報の受容度
を抽出できる

図1 本モデル活用のイメージ

利用・用途 応用分野

- ◆ 人材採用関連で、簡単なアンケートから応募者の性格スコア化
- ◆ アンカーの効きやすさによる、広告ターゲティング(例: 該当者へ値引き率の表示)
- ◆ 企業における適性検査に加えての新たな指標
- ◆ 信用情報の評価に利用
- ◆ オンライン教材にてその人の傾向に合わせたカスタマイズ

関連情報

- 知的財産権 = タイトル: アンカリングの個人特性推定装置 (特願2021-178883) 出願日: 2021-11-01
発明者: 竹川高志・矢崎敬人・濱田智明・小沢勲男, 出願人: 工学院大学
- 関連論文 = 小沢勲男・竹川高志, 大きさ推定における事前バイアスとアンカリング効果 -
情報量の少ない固有名詞を用いた例 -, 電子情報通信学会誌D, 101 (2), 405-413 (2018).
doi: 10.14923/transinfj.2017HAP0008
- 学会発表 = 竹川高志・濱田智明・小沢勲男・矢崎敬人 アンカリング効果と不確かな情報に対する学習
Neuro2022 (第42回日本神経科学大会, 第32回日本神経回路学会) 2022年7月2日 琉球大学



不確かな情報に対する 個人の応答を定量的に評価する

竹川 高志 情報学部 システム数理学科

キーワード: アンカリング効果、数理モデル、認知バイアス

アンカリング
効果とは

- ◆ 自分の予想に対して新たな情報が提示されることで予想が歪められることを指す。
- ◆ この時提示される情報がアンカーと言われる。

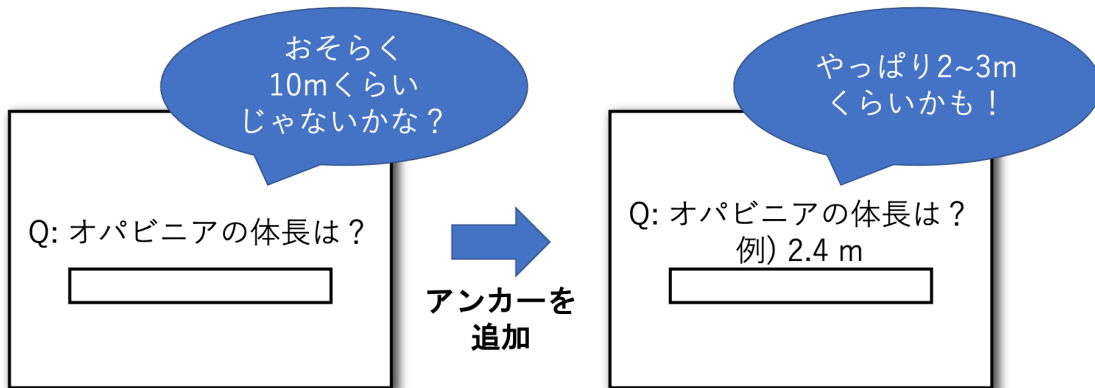


図2 アンカリング効果のイメージ

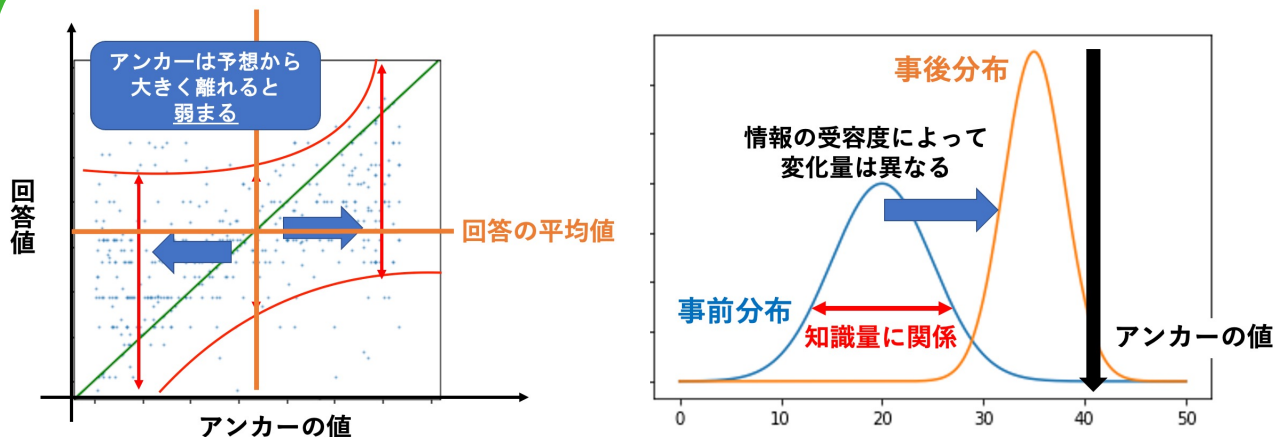


図3 アンカリング効果の性質

今後の展開

- ◆ さまざまな仮定条件のもとモデルの更新
- ◆ 外部データと照らし合わせてのモデル検証